

## 福島税務署長賞

### 税に支えられて

福島市立信陵中学校

三年 相楽 優佳

私は今中学生で、教育を受ける権利があります。私は毎日学校へ通っていますが、今まではそれを当たり前のことにしか思っていないで、せんでした。しかし、校舎を建てるための費用や先生の給料など、私達が学校で学ぶためにかかっている様々なお金がどうやって出来ているのか、ということを疑問に思い、それが税によって支えられていると知って、初めて自分達の暮らしと税との関係があることを知りました。

税金は、以前は農民など身分の低い者が苦勞して支払うものでした。この頃の税金は、支払った者に税を納めた見返りが返ってくるわけではなく、ただただつらい思いをして負担する苦しいだけのものでした。だから、もし学問をしたいと思っても、重い税金を納めるために働き続けなければならなくて、自分

の自由な時間はなかったと思います。

今は違います。以前は苦しい年貢に支配されて生活は貧しく、自分のやりたいこともできなかったのです。

が、今は税金のおかげで学ぶことができるのです。税金が私達のやりたいことを後押ししてくれるのです。それはなぜかというところ、税の使い道が変わったからだと思います。憲法には「国民は法の下に平等であり…」とあります。税が昔のように限られた人のために使われるのではなく、国民に平等に使われるようになったためだと思います。それは憲法で保障されていることであり、そのために学校が建てられたりしています。それだけでなく、安全に快適に暮らす権利のためにゴミ収集が行われ、消防、警察などの公共サービスがあります。日々私達の権利を守ってくれている、そういった施設、サービスも税金でまかなわれているのです。

私達一人ひとりにも、教育資金としてたくさんのお金がかかっています。小学校入学か

ら高校卒業までに、なんと生徒一人あたり、約一千万円もの税金が使われているそうです。その他にも、親が出す費用として、一千万円以上のお金が使われています。合計で二千万円以上のお金が私達一人ひとりにかけられているのです。

私達はまだ税金を納める立場ではありません。税金を使う立場です。

それでも、私達に出来ることはあるはずで、今の私達に出来ること、それは税金をよく活用することだと思います。私は、「自分はきちんと学校生活を送れているだろうか」と不安になりました。両親が自分のために、それだけの費用をかけてくれたんだ、という自覚を持たなくてはいけないと思いました。

これからも税への感謝の気持ちを持ち、税の大切さを一人でも多く伝えられたらいいなあと思いました。

